

平成30年度「みえの現場“やっぱし”すごいやんかトーク」(明和町)の概要

平成30年7月8日(日)いつきのみや地域交流センターにて「みえの現場“やっぱし”すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「明和町観光DMO研究会」の皆さんから、DMOの設立と継続的な運営に向け、明和町の魅力や観光振興についてお話を伺いました。



自己紹介、団体の活動概要の紹介の後、知事とフリートークを行いました。

【参加者からの発言】

Q 皆さんが考える明和町の魅力はどのようなものですか。

○明和町には、町と皇學館大学が連携して作った地元100%のお酒「神都の祈り」があります。このお酒は2種類あり、同じ酒米と同じ酵母を使っているが、それぞれ酒蔵とお水が違うので、味に違いがあります。おかげ横丁の観光客も興味を持ってくれ、これも観光資源になるのではと思います。去年、パリでもこの「神都の祈り」を紹介し、いい反応を得られたと思います。

○明和町は井戸が多く、水がきれいです。だから酒蔵もあるのだと思います。

○明和町は、木々が青々していて自然がすごくきれいです。海、田園、森、川など、本当に自然が豊かで、ここで牡蠣を作れるというのはありがたいことです。

○松阪駅から伊勢市駅までを結ぶ県道777号線という自転車道が明和町を通過していて、青空をバックに777(トリプルセブン)の標識が撮影できる最高の道だと

思い、SNS で一生懸命発信しています。

○明和町と言えば、やはり斎王祭りです。斎王祭りでは、地中にある観光資源が地上にぐっと上がり、皆さんの目に歴史が届けられます。その2日間はやはり魅力だと思います。

Q 研究会の活動を通じての気づきや、活動してよかったと思うことなどを聞かせてください。

○明和町でそれぞれ頑張っている皆さんと、この研究会を通じて知り会え、人の環が広がり、いろいろな話ができるようになったことがとても良かったです。

○研究を進めるうちに、皆で頑張っているという一体感を実感できたことが良かったです。

○自分も誰かの役に立てないかと思い始めていたとき、この研究会への参加をお声かけいただきました。ここで皆さんと出会えたことで、新たな自分の活動にもつながったことがすごくよかったと思います。今まで一人で活動していた点が線になってきました。

○斎王という「物語が語れる町」ということが町の魅力だと、研究会に参加してより強く思うようになりました。

○明和町民でありながら、まだ行ったことがなかった場所があったということに気づけたことは大きいと思います。

Q DMO 研究会としての今後の活動を教えてください。

○7月22日、29日にツアーを企画しています。去年一年間話し合っ、ターゲットを40代女性に設定しました。ここに行って、これを食べて、酒蔵を見学して、バーベキューをして、酒饅頭のお土産を持って帰っていただいと、明和町をひとしきり詰め込んだツアーです。一回で終わりではなく、またやりたい、また来たいとつながっていくように続けていけるかが課題だと思っています。

○まだ具体的には決まっていますが、10月21日の明和町60周年イベントで何か出店したいと思っています。そこで私たちの活動をPRすることで、また新たなつながりができ、それが明和町の一体感や魅力にもなっていくと思います。

○10月21日以降もイベントなどに参加し、次につながる活動を日々積み重ねていきたいです。

【知事の発言】

○パリのSALON DU SAKE2018（サロン・デュ・サケ2018）などをはじめとして、10月にフランスで三重県のお酒を売り出す準備をしています。今年は酒造メーカーの皆さんも頑張ってくださいるので、ブリュッセル国際コンクールという世界の大きなワインコンクールの日本酒部門の第1回を三重県で開催していただくことになり、三重の日本酒を大きくPRしていきたいと思っています。

- 言語で伝えることで多くの人に共感を呼ぶことは大事なことです。魅力というのは自然には伝わらないので、なぜおいしいのか、どういうところに共感しているのか、ということ言語化することで魅力が拡散していきます。
- 皆さんが明和町が好きだということ、それぞれの活動をつなげ掛け算にして、もっとこの地域を盛り上げていきたい、という気持ちが大変よくわかりました。
- 皆さんが今後、明和町の一体感の核となるチームになってほしいと思いますので、ぜひこれからも頑張ってください。



「明和町観光 DMO 研究会」は、地域に想いを持ったメンバー 8 名で構成されています。

DMO の設立と継続的な運営に向け、町の資源、魅力を最大限に発揮し、より多くの方に明和町を知って訪れていただくにはどうすればよいか、研究を進めています。